「レジャー白書2014」発表

大台割り 参加人口970万人

公益財団法人日本生産性本部は8月4日、「レジャー白書2014」を発表した。2013年のわが国の余暇市場は、65兆2160億円となり、前年比0.8%（4900億円）の伸びを見せた。観光・行楽部門が大きく伸びたほか、他の分野でも回復傾向が見られた。その中で、パチンコ・パチスロは参加人口が970万人と1000万人の大台を割り、売上（市場規模）も前年の19兆円台から18兆円台に縮小した。

市場規模も逆戻り18兆円台

パチンコ・パチスロの動向

参加率一桁9.6% 60代と女性が微増

パチンコ・パチスロの売上は18兆8180億円で、前年比マイナス1・3%だった。売上は2010年に20兆円台から19兆円台に転落し、翌11年には18兆円台とさらに下落した。その後12年は19兆円台に戻して減少にやや歯止めがかかったかに見えたが、13年に再び18兆円台に下がった。

参加人口も前年の1110万人から140万人減の970万人となったが、1000万人の大台を切ったのは少なくとも「レジャー白書」の創刊（1977年）以降初めて。また、参加率は1998年以降10%台にあったが、13年は9・6%と一桁に落ちた。年間平均活動回数は27・5回とほぼ横ばいだった。（表1）

年間平均費用は09年以降9万円台～7万円台を行き来しており、13年は7万3200円と前年の9万7100円を2万4000円弱下回った。1回当たり費用は2660円で、前年より880円減少した。

参加率を性・年代別に見ると、男性は全体で13・9%と前年比3%の減。10代～50代が軒並み減り続けているが、60代だけが0・2%微増した。また、女性は全体で5・5%と前年より0・4%の増だったが、09、10年当時の10、11%台には及ばない。（表2）

1万2千店を割る 止まらない大型化

白書では、①パチンコは若年層離れに歯止めがかからず、中高年頼りになっている ②パチスロは複雑なゲームやキャラクターの理解が中高年には難しく、若年層メインの営業になっている ③ここ数年は縮小するファンをパチンコとパチスロで取り合う消耗戦が続いている ④その結果ハイリスク・ハイリターンを求めるマニア化したファンだけが残る構図になっている――などと指摘している。

その他、パチンコ・パチスロに関するおもな記述は次の通り。

表1●パチンコ・パチスロの参加及び市場動向

調　査　年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
参加率（%）	16.3	15.5	15.0	13.1	14.3	16.8	16.3	12.3	10.9	9.6
年間平均活動回数	27.5	23.6	28.1	25.6	29.6	20.4	19.9	27.8	27.4	27.5
参加人口（万人）	1,790	1,710	1,660	1,450	1,580	1,720	1,670	1,260	1,110	970
ホール事業所数	15,617	15,165	14,674	13,585	12,937	12,652	12,479	12,323	12,149	11,893
パチンコ台数（万台）	308	296	293	295	308	316	316	311	304	301
パチスロ台数（万台）	189	194	200	164	145	135	139	147	155	160
1ホール当たり設置台数	318	323	336	338	350	356	365	372	378	388
市場規模（億円）	294,860	287,490	274,550	229,800	217,160	210,650	193,800	188,960	190,660	188,180
対前年伸び率（%）	-0.5	-2.5	-4.5	-15.5	-5.5	-3.0	-8.0	-2.5	0.9	-1.3

出典：「警察庁風営白書」「レジャー白書」各年版

表2●パチンコ・パチスロの性・年代別参加率の推移

（単位：%）

調査年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
全　体	16.3	15.5	15.0	13.1	14.3	16.8	16.3	12.3	10.9	9.6
男性全体	24.8	23.3	22.8	19.6	22.0	22.9	22.8	17.0	16.9	13.9
10代	9.6	13.0	9.0	3.7	4.3	11.4	7.5	8.3	2.0	1.0
20代	32.0	33.5	35.1	23.0	34.4	24.5	26.9	17.1	18.1	13.2
30代	29.8	28.4	28.6	30.3	30.6	27.5	24.7	25.9	20.0	19.4
40代	24.5	27.8	19.1	21.3	25.0	27.1	27.5	21.6	23.1	14.7
50代	31.4	25.9	29.1	23.4	23.4	22.9	28.9	14.9	17.5	15.0
60代以上	16.3	11.9	13.4	11.4	11.6	19.4	16.5	12.6	60年代 15.1 70年代 10.7	60年代 15.3 70年代 8.6
女性全体	8.3	8.2	7.6	6.9	7.0	11.1	10.2	7.7	5.1	5.5

出典：「レジャー白書」各年版　（注）性・年代別の各集団における参加率であり、合計しても100%にはならない。

「ホール数は18年連続で減少し、1万2000店を割り込んだ（警察庁調べ）。中小ホールの苦しさが際立っている一方、大手の出店攻勢は激しさを増し、遊技機1000台以上の大規模出店が数多く見られて大型化が止まらない。長期稼働を期待して導入した遊技機に陰りが見えるようになり、新機種を大量導入してきた大手も入れ替え機種や台数を絞るケースが増えた。低貸玉営業はもはや常識となり、より細かい価格設定を同一店舗内で実施するところも出てきている。ホールでは非喫煙者向けに空気清浄システムを導入し、店内環境を改善する動きが顕著となっている。

カジノや東京五輪影響が注目される

遊技機開発では、旬なキャラクターの採用や他業界とのコラボレーションが進んでいる。遊技機メーカーが主体となり、お笑い芸人を使った初心者向けツアーや、遊技機の認知度を向上させるメニューづくりを居酒屋で行うなど新規顧客開拓に取り組んでいる。

２０２０年の東京五輪・パラリンピックの際、来日する外国人旅行者をいかに取り込むかが業界の重要テーマになっているが、換金方式を説明しづらい現状をいかに打破するかがポイントとなる。カジノ複合施設の設置を目指したＩＲ法案の動向も、業界では注目している。カジノ法制化の折に参入したい業界有力企業が、海外でのカジノ運営に投資するケースが見られる。カジノが国内にできたときの影響を危惧する声もあり、その際にパチンコ法制化を目論む動きがある」

余暇市場の動向

全体の規模0.8%↗ 11年ぶりのプラス

種目別の参加人口は、「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」が５５９０万人で3年連続の首位となった。2位「ドライブ」、3位「外食（日常的なものは除く）」、4位「映画（テレビは除く）」まで前年と同じ順位だった。ほかに順位を上げたものとしては「複合ショッピングセンター、アウトレットモール」「動物園・植物園・水族館・博物館」「宝くじ」「ビデオ鑑賞（レンタル含む）」「ウォーキング」「音楽会、コンサート」（15位）、「帰省旅行」（17位）、「遊園地」（20位）などがある。また、今回初めて調査したので表には入れていないが「読書（仕事、勉強などを除く娯楽として）」が４４４０万人にのぼり、「映画」を抜いて4位に相当することがわかった。

パチンコ・パチスロの参加人口は９７０万人に落ちたが、順位は前年と同じ35位をキープした。（表3）

余暇市場全体の規模は、65兆２１６０億円で、前年比０・８％増だった。市場規模は２００２年に０・７％増加して以降下げ続けていたが、今回11年ぶりのプラスとなった。

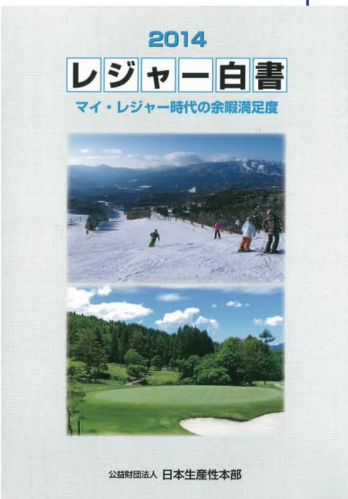
スポーツ部門は同０・１％増でほぼ横ばい。用品類ではシューズ、ウェアが堅調で、ランニング用品、登山・キャンプ用品も伸びた。サービス関係で伸びたのはフィットネスクラブ、スキー場だった。ゴルフ用品も伸びたが、ゴルフ場は利用者が横ばい、売り上げは微減となった。

国内旅行が伸びる テレビは反動減に

趣味・創作部門は同２・７％減。テレビは2大特需（家電エコポイント制度、地上デジタル放送）による反動減が続いた。ＣＤ・音楽配信もヒット作がなかった。映画の興行収入も横ばい。カメラと音楽コンサートが堅調だった。

娯楽部門は同０・８％増。外食、カラオケボックス（ルーム）の伸びが続いた。公営ギャンブルも2年連続の増加。宝くじは年末ジャンボ、ロト7が好調で宝くじ全体の販売額を押し上げた。テレビゲーム・ゲームソフトは大きく減少した。

観光・行楽部門は同４％増と前



「レジャー白書」とは：

国民のレジャー活動を需給両面から定点観測し、総合的に分析するわが国唯一の出版物。１９７７年に創刊され、今号で通算38号となる。全国15～79歳男女を対象にインターネット調査を行い、有効回答３３４９を得た。調査対象はスポーツ部門28種目、趣味・創作部門29種目、娯楽部門21種目、観光・行楽部門12種目、その他部門17種目となっている。今回（13年）新たに加わったのは、「読書（仕事、勉強などを除く）」「ウィンドウショッピング（見て歩きなど、娯楽としての）」の2種目。

用語のうち「参加率」とは、ある余暇活動を1年間に1回以上行った人（回答者）の割合。「参加人口」とは、ある余暇活動を1年間に1回以上行った人口（全国、推計値）で、２０１４年1月現在の15～79歳人口（総務省統計局推計）と参加率を掛け合わせて推計した。「年間平均活動回数」はある余暇活動を行った人の1人当たり年間活動回数の平均。「年間平均費用」は同じく1人当たり年間活動費用の平均。

表3●余暇活動の参加人口上位10位(2012年～2013年)

2012			2013		
順位	余暇活動種目	万人	順位	余暇活動種目	万人
1	国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)	5,670	1	国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)	5,590
2	ドライブ	5,200	2	ドライブ	4,690
3	外食(日常的なものは除く)	5,170	3	外食(日常的なものは除く)	4,470
4	映画(テレビは除く)	4,090	4	映画(テレビは除く)	3,780
5	音楽鑑賞(CD、レコード、テープ、FMなど)	4,000	5	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	3,690
6	カラオケ	3,660	6	動物園、植物園、水族館、博物館	3,500
7	動物園、植物園、水族館、博物館	3,650	7	カラオケ	3,360
8	宝くじ	3,530	8	宝くじ	3,330
9	ビデオの鑑賞(レンタルを含む)	3,420	9	ビデオの鑑賞(レンタルを含む) ウォーキング	3,120
10	園芸、庭いじり	3,100			
35	パチンコ･パチスロ	1,110	35	パチンコ･パチスロ	970

表4●おもな余暇市場の推移

(単位：億円)　(%)

	調査年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	伸び率
スポーツ	ゴルフ用品	4,400	4,390	4,240	4,000	3,590	3,550	3,340	3,370	3,400	0.9
	スキー・スノーボード用品	1,860	1,800	1,760	1,680	1,570	1,510	1,470	1,480	1,430	-3.4
	ゴルフ場	10,500	10,420	10,770	10,550	10,000	9,650	9,220	9,110	9,010	-1.1
	ボウリング場	1,040	1,020	1,010	910	830	820	760	750	720	-4.0
	フィットネスクラブ	4,020	4,270	4,220	4,160	4,090	4,140	4,090	4,120	4,240	2.9
	スポーツ観戦料	1,340	1,340	1,390	1,350	1,450	1,390	1,320	1,360	1,410	3.7
趣味創作	趣味・創作用品	15,050	14,870	15,070	14,510	14,090	14,060	12,470	12,690	12,810	0.9
	鑑賞レジャー用品	35,880	35,300	33,320	33,940	31,370	38,750	27,860	18,940	17,280	-8.8
	学習レジャーサービス	9,780	9,790	9,910	9,710	9,200	8,730	8,130	8,020	7,670	-4.4
	映画	1,980	2,030	1,980	1,950	2,060	2,210	1,810	1,950	1,940	-0.5
娯楽	パチンコ・パチスロ	287,490	274,550	229,800	217,160	210,650	193,800	188,960	190,660	188,180	-1.3
	ゲームセンター	6,260	6,580	6,780	5,950	5,150	4,760	4,660	4,600	4,430	-3.7
	テレビゲーム・ゲームソフト	4,970	6,800	7,110	6,580	5,590	5,320	5,020	4,870	4,430	-9.0
	中央競馬	28,950	28,230	27,590	27,560	25,980	24,280	22,940	23,950	24,050	0.5
	宝くじ	11,050	10,940	10,440	10,420	9,880	9,200	10,040	9,140	9,450	3.4
	外食	121,570	124,080	127,510	128,440	126,080	127,000	123,830	125,070	128,820	3.0
	カラオケボックス（ルーム）	4,210	4,360	4,270	4,210	3,850	3,790	3,850	3,912	3,960	1.3
観光行楽	遊園地・レジャーランド	6,300	6,480	6,430	6,400	6,230	5,990	5,850	6,550	7,240	10.5
	国内航空	3,760	4,150	4,250	4,180	3,770	3,850	3,740	3,970	4,200	5.8
	旅館	19,700	19,110	18,730	17,610	15,850	14,570	14,250	13,990	13,950	-0.3
	ホテル	10,410	10,720	10,930	10,380	9,760	9,760	9,490	9,790	10,820	10.5
	旅行業（手数料収入）	6,920	7,070	7,250	6,850	6,660	6,520	6,230	6,770	6,910	2.1
	海外旅行（国際線収入）	9,080	9,770	10,570	10,630	6,410	7,050	6,510	6,990	7,340	5.0
	余暇市場合計	801,170	791,750	745,980	726,880	694,580	679,870	649,410	647,260	652,160	0.8

年に引き続いて好調。国内旅行が大きく伸びたが、海外旅行は円安の影響で取扱額が減少した。遊園地・テーマパークは過去最高の売り上げを更新した。クルーズも利用者が大幅増。鉄道・貸切バス、航空も利用客を増やした。旅館は伸び悩んだが、ホテルは伸びた。乗用車の販売額はほぼ横ばいだった。（表4）

余暇の満足度

海外旅行に高支持 パチンコは23位に

余暇生活への満足度は、全体で59・6％が「満足している」「やや満足している」と答えた。性・年代別では、男女とも高年層で満足度が高く、70代では7割以上が「満足」「やや満足」と答えた。続いて高いのが10代で、6割が満足と答えた。反対に満足していない割合が高いのは40代で、「満足していない」「あまり満足していない」が男女合わせて4分の1近くになっている。

「最も重視する余暇活動の種目別満足度」の1位は「海外旅行」で、「満足している」「やや満足している」の合計が94％に達した。以下、「音楽会、コンサートなど」「ボランティア活動」「帰省旅行」「カラオケ」と続いている。「パチンコ」は23位で、「満足している」2・4％、「やや満足している」29・3％、「どちらともいえない」31・7％、「あまり満足していない」24・4％、「満足していない」12・2％となっている。（表5）

1～3時間遊ぶ パチンコで46.7％

1回当たりの活動時間で見ると、「30分未満」のレジャーで最も多いのは「宝くじ」。ほかに「サッカーくじ」「体操（器具を使わないもの）」「SNS、ツイッター」など。「30分以上・1時間未満」には種目が一番集中し、「ジョギング、マラソン」「ウォーキング」「トランプ、オセロ、カルタ、花札など」が上位3位を占める。「3時間以上・5時間未満」「5時間以上・24時間未満」には「ゴルフ」「サーフィン」「スキー」「登山」など屋外レジャーが多く、「1泊以上」は旅行関連が多い。

パチンコの場合は「1時間以上・3時間未満」が最も多い46・7％、次いで「3時間以上・5時間未満」27・6％、「30分以上・1時間未満」10・5％、「5時間以上・24時間未満」9・3％、「30分未満」5・9％の順となっている。

表5●最も重視する余暇活動の種目に対する満足度

（%、満足度はポイント）

順位	種目	（回答数）	満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	種目に対する満足度
1	海外旅行	133	50.4	43.6	3.0	2.3	0.8	4.41
2	音楽会、コンサートなど	111	52.3	34.2	8.1	3.6	1.8	4.32
3	ボランティア活動	54	38.9	53.7	7.4	0.0	0.0	4.32
4	帰省旅行	70	38.6	42.9	15.7	2.9	0.0	4.17
5	カラオケ	47	29.8	59.6	8.5	0.0	2.1	4.15
6	水泳（プールでの）	48	33.3	54.2	6.3	4.2	2.1	4.13
7	ペット（遊ぶ・世話する）	93	39.8	38.7	15.1	6.5	0.0	4.12
	ゴルフ（コース）	78	28.2	59.0	9.0	3.8	0.0	4.12
9	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	54	40.7	37.0	14.8	7.4	0.0	4.11
10	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	393	27.0	58.3	10.2	4.1	0.5	4.07
23	パチンコ	41	2.4	29.3	31.7	24.4	12.2	2.85

23種目の平均　3.97

（注1）参加した種目のうち最も重視するものを1つを選んでもらい、回答者が40人以上いた種目（23種目）について、その種目に対する満足度の高い順にした。
（注2）「種目に対する満足度」は回答を次のようにポイント化して、平均値を示した。
「満足している」=5、「やや満足している」=4、「どちらともいえない」=3、「あまり満足していない」=2、「満足していない」=1
（注3）薄いピンクの網掛けは、その種目で最も多い回答、薄いブルーの網掛けは次に多い回答を示す。
例えば海外旅行は「満足している」という回答が最も多く、次に「やや満足している」の回答が多いことを示す